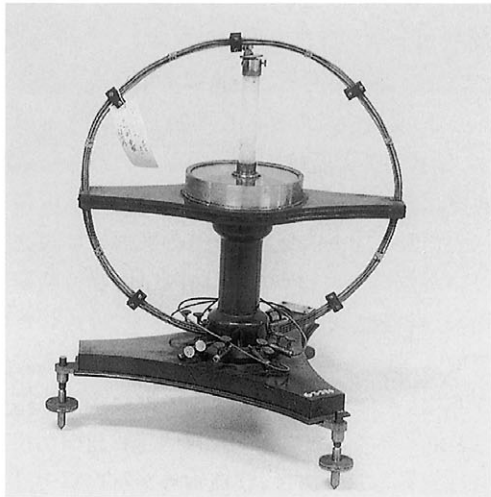


金沢大学 資料館 だより

No. 8

KANAZAWA UNIVERSITY MUSEUM NEWSLETTER



ウェーベル[Weber]氏正切測電盤
Ferdinand Ernecke社製・明治24年購入, ¥34

目次

旧制第四高等学校の	
物理学教育用実験機器	2
美術研究室 卒業・修了制作展雑感	6
アラビア湾岸の交易都市	
ハレイラ島の発掘展	7
金沢大学資料館所蔵	
考古学資料紹介(2)	8
標本室を訪ねて	
金沢大学理学部ハーバリウム	11
資料館彙報・資料紹介	12

3年後に迎える本学創立50周年があちこちで話題に上っているようです。新制大学としての発足50周年ということではありますが、創立の母体となった旧制高等学校、工業専門学校、医科大学等に、さらに遡れば、加賀藩校（明倫堂・経武館）に本学の起源をみることができるように、50年には収まりきれない歴史と伝統が本学にはあると云えましょう。このような本学の伝統や歴史と深く関わり、学問・文化の発信源としての一翼を担うことが本資料館の任務であろうと考えています。資料館についてさらに御理解をいただくために、本年度から資料館だよりの発行を年二回とすることにいたしました。各位の御協力をお願いいたします次第であります。

資料館長・大橋信喜美（理学部）

旧制第四高等学校の 物理学教育用実験機器

馬 替 敏 治

当資料館には、資料館だよりの No.5, No.6の集報欄に報告されているように、旧制第四高等学校の物理学実験機器91点が収蔵されている。これらの内の一つである「魔鏡」については、No.5に金沢大学理学部松岡慎一教授の詳しい報告⁽¹⁾があり、その中で収蔵への経過についても触れられている。更に詳しくは、今春に本学で開催された物理学会第51回年会での物理学史分科の「物理教育用実験機器－歴史と現状－」と題するシンポジウムの中で行った講演⁽²⁾に於いて報告した。そのときの講演内容とその後の調査結果をもとに整理した内容について、91点の目録(p.4~5)を含めて、簡単に紹介する。

第四高等学校（以下四高と記す）の物理教育機器は表1にあるような分野に分けられ、総点数1437点あった。これらの内には、明治20年開学の第四高等中学校から引き継いだと推察されるものも多い。これらすべての機器は破損したものを除いて、金沢大学発足と同時に一旦は法文学部に書類上の移管がなされた後に、旧四高の建物を利用した理学部物理学教室が管理することとなり、金沢城跡内への移転を機に、昭和39年（1964年）以降は、旧教養部物理学教室に移され管理されてきた。その後、平成5年（1993年）の旧教養部の角間キャンパスへの移転の際に、現存していた794点の内の91点が資料館に、残りの大部分が石川県に、一部が旧教養部

物理学教室に保管されることとなった。すべての機器が一堂に収蔵されることが望ましかったが、破棄を免れただけでも、幸いであり、今後協力しあって維持、管理、展示されていくはずである。

なお、旧制高等学校に関係する大学の内、京都大学於いても旧制三高の同様な物理実験機器⁽³⁾が保管されているが、他の大学ではほとんど破棄されてしまって、残されていないようである。当大学で現在まで保存されてきたのは、名誉教授の竹村松男先生、元理学部の森仙次先生、元教養部の石橋久伸先生などの熱意によるものである。また、理学部の松岡慎一先生には、収蔵の際に御尽力いただき、その後も多くの機器の解説文を作成していただいた。91点の目録中には、購入時期や購入価格等が判明しているものもあるが、前述したように保管主体、場所が何度も変わったため、これらの情報が分からない物も多いのは、残念ではあるがやむを得ないことであろう（リスト中に購入年月日が明治39年以前（推定）とあるのは、整理番号が年代順としたときの一応の推定である）。

これら91点は物理学会第51回年会にあわせて、資料館主催の「旧制四高物理実験機器展」に展示されたが、特にその時見学者の関心を呼んだ水銀温器について以下に紹介する（1996.4.2 北陸中日新聞に記事掲載）。

	目 録 上 の 数					現 存 数			
	明 治 年 代		大正年代	昭和年代	合 計	合 計	収 蔵 先		
	~39年	~45年					資料館	石川県	教養部
重 学	132	25	107	80	344	174	5	159	10
音響学	49	13	20	11	93	56	6	45	5
光 学	95	34	54	60	243	145	28	104	13
熱 学	83	29	54	28	194	93	4	87	2
磁気学	15	5	7	3	30	22	3	18	1
静電学	41	15	22	4	82	60	2	58	0
流電学	139	42	144	126	451	244	43	191	10
合 計	554	163	408	312	1437	794	91	662	41

表1 機器点数

水験温器 (図1 (写真))

Ferdinand Ernecke(Berlin S.W.)の製品で、温度計物質として水を使ったものである。水の体積は、4°Cで最低で、それより温度が上がっても下がっても体積が増えるという特異な振る舞いをするため、温度目盛りが独特である。水験温器は、温度計というよりは、このような水の体積の温度変化の特異性を説明するために作られたものようである。收藏品に付けられた目盛りは図2であり、水の温度に対する体積変化とガラス容器の体積変化を考慮した、いわゆる見かけの体積変化を考えれば、4°Cではなく、6°Cで最低目盛り位置を示すのであろうことは十分理解できるが、この目盛りが、展示会を見学した人たちを大いに惑わした。その後、Ferdinand Ernecke社の価格表No.18 (水験温器の価格は15Mkとなっている) に紹介されている文献(Muller-Pouillet's Lehrbuch der Physik)に関連した本⁽⁴⁾を四高の蔵書の中から見つけて調査したところ、6°Cで最低位置を示し、0°Cと11°C、-3°Cと15°Cでそれぞれ同じ目盛り位置となることが記述されている。つまり、図3の目盛りが正しいものであろうことがわかった。図2は恐らく、-3に|を加えて+3に修正し、3に-を加えて-3に修正したものと思われるが、どの時点で誰がこのように修正したのかは、全く定かではない。修正が巧妙であるため、当初は全く気が付かなかった(-3°Cは過冷却の状態での目盛り位置である)。このような場合、正しい図3の様に修正して展示すべきかとも考えら

れるが、間違いを指摘した解説書をつけて展示するのが、正しい態度であろうと思えてきた。なお、第四高等中学校教諭兼教頭飯盛挺造纂譯の物理学中編⁽⁵⁾ (明治22年第9版, 初版は明治12年) の中の図には-3の表記はなく、3の目盛りが0をはさんで二ヶ所にあることになっているのが気にかかる。また、別の文献⁽⁶⁾では0°C以上のみの目盛りについての説明図(グラフ)がある。

- (1) 松岡慎一, 「不思議な鏡」 金沢大学資料館だより, No.5 (平成6年1月1日発行) p.2
- (2) 馬替敏治, 松岡慎一 「旧制第四高等学校物理教育用実験機器—金沢大学資料館への収蔵の経緯と收藏品」 日本物理学会講演概要集第51回年会第4分冊 (1996) p.277
- (3) 永平幸雄, 川合葉子, 鉄尾実与資, 「明治19年以前の京都大学旧教養部旧蔵物理実験機器の分析」 科学史研究 第33巻NO.191(1994) p129
- (4) J.Muller/L.Pfaundler
Lehrbuch der Physik und Meteorologie II-II
Friedrich Vieweg und Sohn(1879) p.76
- (5) 飯盛挺造纂譯/丹波敬三, 柴田承桂 校補
物理学 中編 第9版 (明治22年) 島村利助,
丸屋善七, 南江堂 p.407
- (6) G.F.Barker, Physics-Advanced Course,
Macmillan and Co. London(1892) p.293

(工学部 土木建設工学)

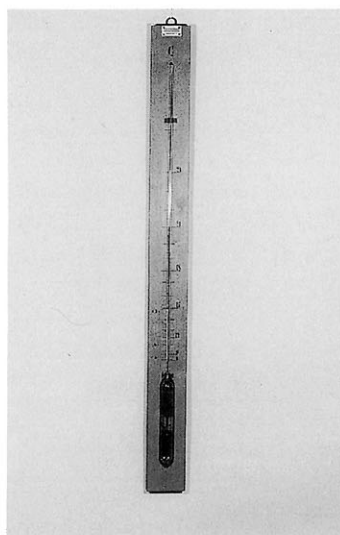


図 1

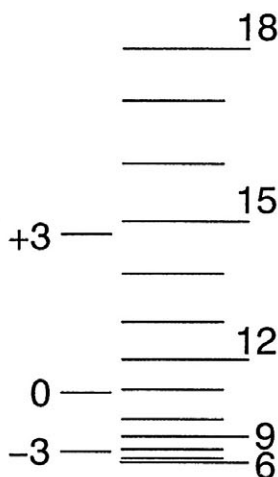


図 2

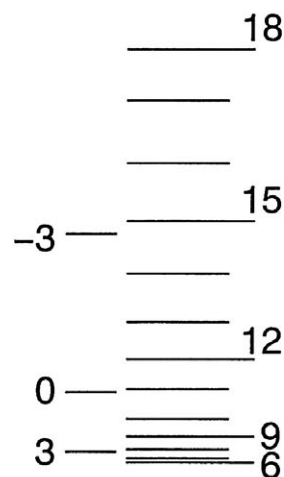


図 3

第四高等学校物理機器目録

[91点]

整理番号	機器名	メーカー名	購入年月日	購入価格
[重学]				
0018	化学秤(付属分銅)	J.F.Luhme & Co,Berlin	M.39以前(推定)	
0068	マグデブルグ[Magdeburg]半球(イ,Ⅱ)	E.S.Ritche,Boston	M.39以前(推定)	¥1.50
0094	コップ[Kopf]氏ヴォルメノメートル	Ferdinand Ernecke	M.39以前(推定)	
0302	トランシット	W.&L.E.Gurley Troy,New York		
0303	セックスタント(sextant=六分儀)	Heath & Co.Ltd.Crayford,London		
[音響学]				
1002	ジレー子(イ,Ⅱ,Ⅲ)		M.39以前(推定)	Ⅱ ¥10
1003	ジレーネ	C.Gerhardt,Bonn	M.39以前(推定)	
1027	キヨニヒ[König]氏瓦斯光付管	Ferdinand Ernecke	M.39以前(推定)	(36Mk)
1030	貳個の発音気柱比較器	Ferdinand Ernecke	M.39以前(推定)	
1039	發條付蕚音器	Ferdinand Ernecke	M.39以前(推定)	
1044	サイレン模型	Max Kohl Chemnitz	M.39以前(推定)	¥62.14
[光学]				
2014	スペクトルスコープ	S.Gerhardt,Bonn	M.39以前(推定)	
2023	日光顕微鏡		M.39以前(推定)	
2028	ステレオスコープ(実体目鏡)		M.39以前(推定)	
2030	顕微鏡		M.39以前(推定)	
2031	顕微鏡		M.39以前(推定)	
2038	分極装置(含付属品)		M.39以前(推定)	¥95
2067	瓦斯体の屈折係数測器		M.39以前(推定)	¥48
2088	顕微偏光装置		M.39以前(推定)	
2091	ステレオスコープ		M.39以前(推定)	
2119	ネルレンベルグ[Nörenberg氏]偏光器	三省堂	M.42.9.16.	¥11.80
2125	実体鏡(イ,Ⅱ)			
2131	ブンセン[Bunsen]氏分光計	Max Kohl AG. Chemnitz	T.2.7.1	
2143	レアリスチックスコープ(絵89枚付)	The Fine Art Photographer's Pub.Co.	T.3.5.18.	
2151	波長測定用分光計	Adam Hilger Ltd,London	T.9.1.4	
2158	フェリー[Féry]レフラクトメーター	Adam Hilger Ltd,London	T.11.3.27.	
2171	スペクトル写真機	Adam Hilger Ltd,London	T.13.12.3.	
2172	教育用分光計	Adam Hilger Ltd,London	T.12.12.25.	
2174	分光器	Franz Schmidt & Haensch, Berlin S.	T.13.6.18.	¥23
2181	日本魔鏡(2枚)		S.6;T.15.3.15.	¥9.50
2184	クオルツスペクトルグラフ	Adam Hilger Ltd.	S.2.3.15	¥700
2192	ウルトラ顕微鏡(限外顕微鏡)	Carl Zeiss	S.3.2.21	¥1557
2194	比較分光器	Carl Zeiss	S.3.9.18	¥445.70
2195	レフラクトメーター	Carl Zeiss,Jena	S.3.9.18.	¥260
2208	スペクトログラフ	Carl Zeiss,Jena	S.5.10.7.	¥487
2209	廻折格子分光計	島津	S.6.3.26.	
2213	ミッテェルリッヒ [Mitscherlich]氏砂糖計	C.P.Geortz,Berlin		¥240
2223	ファラデー[Faraday]測距儀	E.Leitz Wetzlar	S.6.3.31.	
2226	写真機	Agfa Standard	S.7.3.5.	
[熱学]				
3028	水験温器	Ferdinand Ernecke,Berlin S.W. II	M.39以前(推定)	
3030	メロニー[Melloni]氏 テルモルツプリカートル ^{▽▽}	Ferdinand Ernecke,Berlin	M.39以前(推定)	
3061	液体の比熱測定器	Ferdinand Ernecke,Berlin	M.39以前(推定)	
3077	ブレグエット[Breguet]氏金属寒暖計	Max Kohl	M.39以前(推定)	
[静電学]				
4026	電気穿器	C.Gerhardt,Bonn	M.39以前(推定)	
4043	エキス子ル[Exner]氏電気計	Max Kohl	M.40.5.8	¥31.28
[磁気学]				
5009	磁気全機能測定器	Ferdinand Ernecke,Berlin	M.39以前(推定)	
5012	磁石棒	Ferdinand Ernecke,Berlin	M.39以前(推定)	
5013	地球磁石強度測定器	Ferdinand Ernecke,Berlin	M.39以前(推定)	

[流電學]

6003	電信雛形(イ,ロ)		M.39以前(推定)	イ ¥2,ロ ¥2
6004	文字電信(イ,ロ)		M.39以前(推定)	イ ¥17,ロ ¥17
6017	ガルワノメーター		M.39以前(推定)	
6018	増電器		M.22	¥19
6019	タンгентブリール ^マ		M.39以前(推定)	
6037	ウェーベル[Weber]氏増電計	C. Gerhardt, Bonn	M.22	¥75
6040	ガルワノメートル付抵抗箱	Western Electric Co, Chicago	M.39以前(推定)	¥261?
6043	ファヒネル[Fechner]氏電気計	Ferdinand Ernecke	M.24	¥19.2
6045	磁石ト電気トノ関係ニ因リテ起ル 回転器	Ferdinand Ernecke	M.24	¥19.20
6046	モールス[Morse]氏電信機(模型)	Ferdinand Ernecke	M.39以前(推定)	¥36
6048	フ>リッケル氏装置 ^マ	Ferdinand Ernecke	M.24	¥61.60
6049	ジメンス[Siemens]氏 ジヌスブリトン ^マ		M.24	¥84
6055	ウェーベル[Weber]氏正切測電盤	Ferdinand Ernecke	M.24	¥34
6056	回転電流ニ由リテ磁石傾斜ヲ示ス器	Ferdinand Ernecke	M.24	¥7.20
6057	電気磁石回転装置	Ferdinand Ernecke	M.39以前(推定)	
6060	スピーゲルガルワノメートル	Ferdinand Ernecke	M.39以前(推定)	¥64.43 ?
6069	タムソン[Thomson]氏 ガルバノメートル	Carpentier, Paris	M.39以前(推定)	
6070	正切電流計		M.39以前(推定)	
6071	電流回転器		M.27	¥6.70
6088	サーモバイル		M.39以前(推定)	
6092	クルックス[Crookes]氏管	Max Kohl Chemnitz	M.39以前(推定)	
6096	ペルチアール[Pertier]現象実験器	Max Kohl	M.39以前(推定)	
6114	ボロメートル(含付属品)		M.39以前(推定)	
6117	クラーク[Clark]氏標準電池	Germany	M.39以前(推定)	
6125	ジメンス[Siemens]氏電気動力計	Max Kohl	M.39以前(推定)	¥153.04
6126	ウィーデマン[Wiedemann]氏 鏡電流計(含付属品)	Max Kohl	M.39以前(推定)	¥295.72
6136	射影用電流計	Max Kohl	M.39以前(推定)	¥49.50
6141	フーコー[Foucault]電流発生器	Max Kohl (£ 5.00)	M.40.5.8	¥38.24
6169	エールトンマーサー [Ayrton-Mather]鏡電流計	Max Kohl	M.43.4.7.	£ 5.00
6180	指針電流計	Hartmann and Braun A.G. Frankfurt A/M.	M.44.12.12	
6182	ウィーデマン[Wiedemann] 電流計用コイル(6126の附属)	Max Kohl	T.1.2.23.	¥33.06
6226	エヂソン・ランド電池	Edison M. I. G. Co, Orange N. J. USA	T.5.8.2.	
6232	タムソン氏反射電流計 (無定位磁針電流計)	島津	T.6.2.5	¥40
6245	学生用ポテンシヨメーター	Leeds & Northrup Co, Philadelphia	T.7.9.9	
6247	標準カドミウム電池	The Leeds & Northrup Co, Philadelphia	T.7.9.9.	
6272	示度ポテンシヨメータ	Leeds & Northrup Co, Philadelphia	T.9.3.2	¥321
6294	電位差計(学生用)	The Leeds & Northrup Co, Philadelphia	T11.3.6	
6296	ポータブルテストングセット		T.11.3.28	¥284
6309	指針電流計	W.G.Pye & Co, Eng, Cambridge	T.13.9.5	
6341	壁掛ダルソンバル電流計	Leeds & Northrup Co, Phil	S.4.2.12	
6343	携帯用熱線ボルトメーター	Hartmann & Braun A.-G. Frankfurt A/M.	S.4.2.12	¥225
6367	速指標準電圧計	島津 Hartmann & Braun A.-G. Frankfurt	S.6.3.31	
6403	ミリカン[Millikan]油滴装置 (霧吹き附属)	Welch Chicago	S.6.11.30	¥280

[M: 明治, T: 大正, S: 昭和]

美術研究室 卒業・修了制作展雑感

今井治男

本年2月26日から3月1日まで、教育学部美術研究室の卒業生と大学院修了生の美術展を、資料館展示室で開催した。

学部学生にとっては平素の基礎的勉学を踏まえて、その総決算としての研究発表であり、大学院修了生にとっては更に一步進めて造形とは何かを考え、自分の考えを自分のものとして具体化する研究発表の場であったと思う。出品作は次のようであった。

- 山本兼史 人物Ⅰ・Ⅱ、静物Ⅰ（水彩画）
- 高田佳枝 コラージュⅠ・Ⅱ（デザイン）
- 長柄 可 日本の伝統色の再評価についての研究（論文パネル）
- 堀 浩子 隅Ⅰ・Ⅱ（銅版画）
- 坂井敬子 牛骨（油彩画）
- 竹中百合子 秋、夏、人物（油彩画）
- 中野夕紀子 壁面ライト、フロアライトⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（陶芸）
- 宮本貴也 人物Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（油彩画）
- 向 聡子 風の庭、刻、world（銅版画）
- 平野ルリ 鑑賞教育におけるコンテンポラリーアートからの試み（論文パネル）
- 野村泰通 レオナルド・ダ・ヴィンチの絵画にみる人文主義の影響（論文パネル）



向 聡子「刻ーときー」

以上の作品について若干の批評を加えるとすれば、まず院生平野の論文パネルは現代美術を中学校の美術教育の中でいかに生かすべきかを、さまざまな角度で考察し探求するにさいし、現職の立場を十二分に活用して実践例を列举し、難解なと考えられがちな現代美術になじみやすい窓口を設けて子供達との接点を求め論述している。これは現職教員ならではの具体的熱意であろう。また向のエッチング「風の庭」は室内に柔らかに吹き込む風を頬に受け止めて、その触感を形象化するという高度な造形的工夫があり、また「刻」は世紀末の象徴主義的雰囲気の中で形象を自己の内面世界と融合させた造形として印象深い作品となった。学部卒業生では宮本の「人物Ⅰ」に彼の豊かな才能を感じる。自画像を正面から捉えたこの油彩画は、単に自分の姿を写し取ったものではなく、自己の心の風景として造形化し成功している。また坂井は牛骨を中心にした静物画で、彼女のいうこれまでの勉強の総決算と言うにふさわしい力強い描写力を示した。中野は陶芸の「壁面ライト」「フロアライト」をとらわれない発想の自由さで縦横にデザインしている。これから必要なことは技術的経験を豊富にして作品的完成度を高めることであろう。そして竹中の風景画は日射とその影を自然主義的な描写で捉えぬくもりのある画面を作っている。

紙数の都合で他の作品に触れることはできないが、このように見てくると実にさまざまな個性が成長していることを感ぜずにはいられない。今度資料館展示室という絶好の会場を得て卒業生たちの未来につながる姿を確認できたことを幸せに感じている次第である。

（教育学部 美術教育）



会場風景 平成8年2月

アラビア湾岸の交易都市 ハレイラ島の発掘 展

佐々木達夫^{*1}、大浜菜緒^{*2}、在田則子^{*3}

金沢大学文学部考古学講座は、1987年以来、アラビア湾岸のアラブ首長国連邦で交易都市遺跡を調査している。今回の展覧会では、1995年11月中旬から1996年1月初旬に行った発掘の成果を紹介した。

会場は金沢大学資料館、期間は1996年6月10日～7月6日、主な展示資料は図面56枚・写真80点・解説パネル5枚等、主催は金沢大学資料館および・金沢大学文学部考古学研究室、後援は北国新聞社。図録は『アラビア湾岸の交易都市ハレイラ島の発掘展』を刊行。企画・執筆は在田則子、大浜菜緒、橋爪直子、楠寛輝、佐々木達夫、展示協力は岩田安之、波頭桂、九千房百合、向井互、井貫昇平、酒井中、森満理。ギャラリートークを6月19日（水曜日）午後2時から行い、展覧会関連の研究会を7月6日～7日「ヘレニズム～イスラーム考古学研究会」と題し、金沢大学文学部A201室で開催した。

展覧会の目的は次のとおり。実物資料に触れる基礎的包括的な学生教育を行う。大学内で行われている研究・教育の成果を、資料館を通して学外へ視覚的に紹介する。

アラブ首長国連邦で交易都市遺跡を調査研究する目的は、古代・中世における海上貿易史の資料を層的に把握することである。調査の概要を以下に紹介する。ハレイラ島は8kmの細長い岸に沿う島で、対岸の平坦部や山並と、狭いラグーンのコール・クワイルで隔てられている。現在の都市ラムスは島の南方に、クリークを挟んで位置している。植物のまねな砂と岩だけの島であるが、1995年は2ヶ月の調査中に3週間も雨が降るといふ過去に例がない天候になり、緑あふれる島に変貌した。

1994年度の第1次発掘で、砂丘上に位置する9世紀の軍隊駐屯地の調査を終え、今回展覧した1995年度の第2次発掘で、5-8世紀のササン・初期イスラーム時代の住居跡群（D区）と、16-17世紀の貝塚（C

区）を調査した。5-8世紀という時代の遺跡の発見はアラビア湾岸で珍しく、とくにササン朝後半からウマイヤ朝時代の特徴を示す資料は、日本人が初めて発掘した研究資料になる。

D区はハレイラ島南端の海際の平坦な地で、長さ30m、幅20mの発掘区をほぼ全面発掘した。地表面の砂を剥ぐと、多くの小石が現れた。雑然と散在しているように見えた石の広がりをつたると、家の輪郭が見えてきた。少なくとも3軒の家の存在が推定できた。壁石に多く使用されたのは砂と貝が固まってできた石であった。住居の一部は床面が焼けていること、遺物の多くに焼けた痕があることなどから、火災にあったと推測できる。漆喰を貼った床面には、多くの陶器壺が潰れた状態で残っていた。

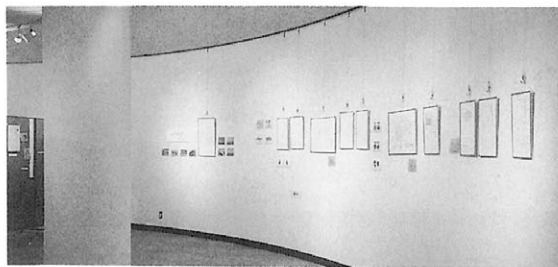
住居は多くの炉をとめない、炉跡からは魚骨、貝が多数出土した。出土品は骨・貝のほかにも、無釉、施釉の陶器、ガラス製の瓶やビーズ、動物の文様を刻んだリング・ストーン、瓶の底、蓋、貝製のビーズ、金属製品など多種多様であり、かなりの量になった。メソポタミアの陶器や現地産の土器など陶磁器の量が多い。ササン朝前半までの施釉陶器については、他の遺跡でフランス人が編年したが、それ以後の空白部分を埋める資料を入手したことは学問的に意義深い。また、アラビア湾岸で最古となる中国銭が一枚発見され、その歴史的な意味も大きい。

C区は島の南端沿岸に位置し、17世紀頃の貝殻や陶磁器片が散乱するゴミ堆積層、すなわち貝塚である。貝塚からは東南アジアや中国の製品も出土している。この地域に連続する平坦地D区では、ササン・ウマイヤ朝の石造り壁の住居群が発見された。CD地域はラグーンに入る水路に沿い、この地域は港湾施設をもつ都市跡と推定できた。

(1.文学部 考古学,2.文学研究科 考古学,3.資料館)



会場風景 平成8年6月



金沢大学資料館所蔵考古学資料紹介（2）

佐々木達夫，在田則子，大浜菜緒

資料館では，考古学資料を研究及び教育に活用するため，収蔵目録を作成している。今回は第四高等学校旧蔵の資料のうち磨製石斧を紹介する。資料番号は，実測図番号と資料館の登録番号を記している。

表1 四高考古資料（2）

登録番号	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石種	分類	産地地名	遺跡名	発掘の時期
1. C204-2	5.3	2.7	1.0	26	翡翠質	定角形	天神山	魚津市天神山遺跡	縄文時代中期
2. C221-1	9.3+	5.8+	2.9+	247	蛇紋岩質	楕円形	天神山	魚津市天神山遺跡	縄文時代中期
3. B117-1	8.9+	7.7	3.8+	383	安山岩	不明	越中東礪波郡井波付近	井波町開業寺山遺跡か	縄文時代中期
4. B117-2	10.1	5.5+	2.1+	211	蛇紋岩質	定角形	越中東礪波郡井波付近	井波町開業寺山遺跡か	縄文時代中期
5. C256-1	12.0+	6.7+	3.1+	429	蛇紋岩質	定角形	越中東礪波郡井波付近	井波町開業寺山遺跡か	縄文時代中期
6. C256-2	10.5	4.9	2.3	191	蛇紋岩質	定角形	越中東礪波郡井波付近	井波町開業寺山遺跡か	縄文時代中期
7. C221-1	9.1	4.5	2.0	159	蛇紋岩質	定角形	越中東礪波郡井波付近	井波町開業寺山遺跡か	縄文時代中期
8. C207-1	12.9+	5.9+	2.3	340	蛇紋岩質	定角形	越中東礪波郡金屋	庄川町金屋ボンボン野遺跡/水田化で消滅	縄文時代中期
9. C222-2	12.0	4.4	2.9	235	安山岩	楕円形	越中婦負郡深道	山田村深道遺跡	縄文時代中期
10. B117-3	7.9+	5.2+	2.0+	141	蛇紋岩質	定角形	越中上野方村石垣	魚津市石垣遺跡	縄文時代中期～晩期
11. C221-2	8.5	5.2	2.0	149	蛇紋岩質	定角形	越中中新川南加積村	上市町永代・野島・広野新・松原野遺跡か	縄文時代中期～晩期
12. C221-3	10.9+	4.9+	2.4	195	蛇紋岩質	定角形	越中愛本新	宇奈月町愛本新遺跡	縄文時代中期～晩期
13. C222-3	12.4+	5.5	3.0	353	蛇紋岩質	楕円形	加賀石川郡笹塚	金沢市北塚遺跡	縄文時代後期～晩期
14. B117-4	5.4+	6.1+	2.9+	124	安山岩	不明	加賀石川郡粟ヶ崎	金沢市・内灘町内灘砂丘遺跡群	縄文時代中期～後期
15. B221-4	3.1+	4.7+	1.7+	34	翡翠質	不明	宝達山通称中尾	不明	不明
16. C257-1	5.2+	7.5+	2.6+	147	安山岩	不明	越前国坂井郡石新保	福井市石新保遺跡	縄文時代
17. C257-2	5.5+	5.7+	2.3+	104	溶岩状砂岩	不明	信州木曾玉川村	茅野市藤塚・下ノ原・茅野和田遺跡か	縄文時代
18. C257-3	4.9+	4.6+	2.2+	67	翡翠質	楕円形	越中国木下	不明	不明
19. B117-5	10.8+	5.6+	3.3+	283	安山岩	楕円形	上越北相馬郡上高井村	取手市神明貝塚・神明西脇遺跡か	縄文時代
20. C209-1	12.7+	6.7	3.6	543	蛇紋岩質	定角形	不明	不明	不明
21. C204-1	14.4+	6.1	2.8	463	蛇紋岩質(チャート状)	定角形	不明	不明	不明
22. C256-3	12.7+	6.0	2.4	336	蛇紋岩質	定角形	不明	不明	不明
23. C256-4	14.6	7.1+	2.8	529	蛇紋岩質	定角形	不明	不明	不明
24. C257-4	4.3+	6.5+	1.7+	63	翡翠質	不明	不明	不明	不明
25. S9-1	5.9+	4.2+	2.6+	52	安山岩	不明	不明	不明	不明
26. S5-11	4.8+	4.8+	2.4+	51	安山岩(噴出)	不明	不明	不明	不明
27. S5-10	7.9+	2.3+	1.8	54	不明	不明	不明	不明	不明
28. S5-25	4.3+	5.6+	2.9+	79	火山岩	不明	不明	不明	不明
29. S5-12	7.2	3.1	1.3	45	蛇紋岩質	不明	不明	不明	不明
30. S5-24	8.2	3.9	2.6	121	翡翠質	不明	不明	不明	不明
31. S5-16	4.8+	4.6+	2.9+	112	砂岩	不明	不明	不明	不明
32. S5-18	7.5	4.1	2.1	102	蛇紋岩質(チャート状)	不明	不明	不明	不明
33. S5-9	4.0+	7.7	2.2+	93	安山岩	不明	不明	不明	不明

文献

『北陸地方遺物遺跡表』『北陸人類学会志第貳編』1898
 1.2. 『天神山遺跡調査報告書』富山県教育委員会 魚津市教育委員会 1959
 『布麻の文化』『魚津市史』1968
 『魚津市天神山遺跡の調査-1986年試掘調査の概要-』『魚津市立博物館紀要第1号』魚津市教育委員会 1990
 3.4.5.6. 『縄文文化』『井波町史』1970
 7.8. 『縄文のふるさと』『庄川町史』1975
 9. 『山田村考古(縄文時代等)遺跡一覽』『山田村史下巻』1981
 『考古』『山田村史上巻』1984
 10. 『野方の夜明け』『魚津市史』1968
 『魚津市石垣遺跡発掘調査報告書』魚津市教育委員会 1971
 『魚津市石垣遺跡発掘調査概報』富山県教育委員会 1972
 11. 『上市町のあけぼの』『上市町誌』1970
 『北陸自動車道遺跡調査報告-上市町土器・石器編-』富山県埋蔵文化財センター 上市町教育委員会 1981
 『富山県上市町永代遺跡緊急発掘調査概要』上市町教育委員会 1985
 12. 『石器時代の宇奈月』『宇奈月町史』1969
 『愛本新遺跡調査概報』下新川郡宇奈月町教育委員会 1971
 13. 上田三平『笹塚及末松遺跡』『石川県史蹟名勝調査報告第1輯』石川県 1923
 『金沢市北塚遺跡』金沢市教育委員会 金沢市埋蔵文化財調査委員会 金沢市中央農業協同組合 1977
 『北塚遺跡群』石川県立埋蔵文化財センター 1985
 14.15. 上田三平『大根布付近の遺跡』『石川県史蹟名勝調査報告第一輯』石川県 1923
 宇野富良『金沢付近浜海土器発見状況』『北陸人類学会志第1編』1896
 高堀勝富『内灘砂丘遺跡研究の歩み』『内灘町史』1982
 高堀勝富・橋本澄夫『内灘砂丘出土の遺物』『内灘町史』1982
 16. 月輪眞成『越前ノ遺跡遺物及別家の呼称村名』『東京人類学会雑誌第55号』1890
 月輪眞成『越前遺物遺跡表』『北陸人類学会志第貳編』1896

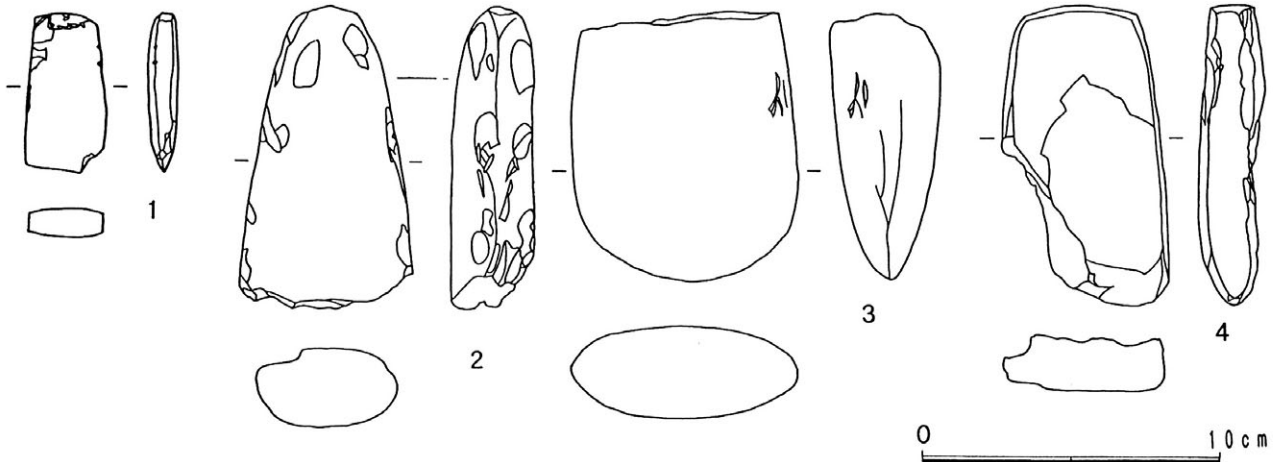


図1 四高旧蔵磨製石斧

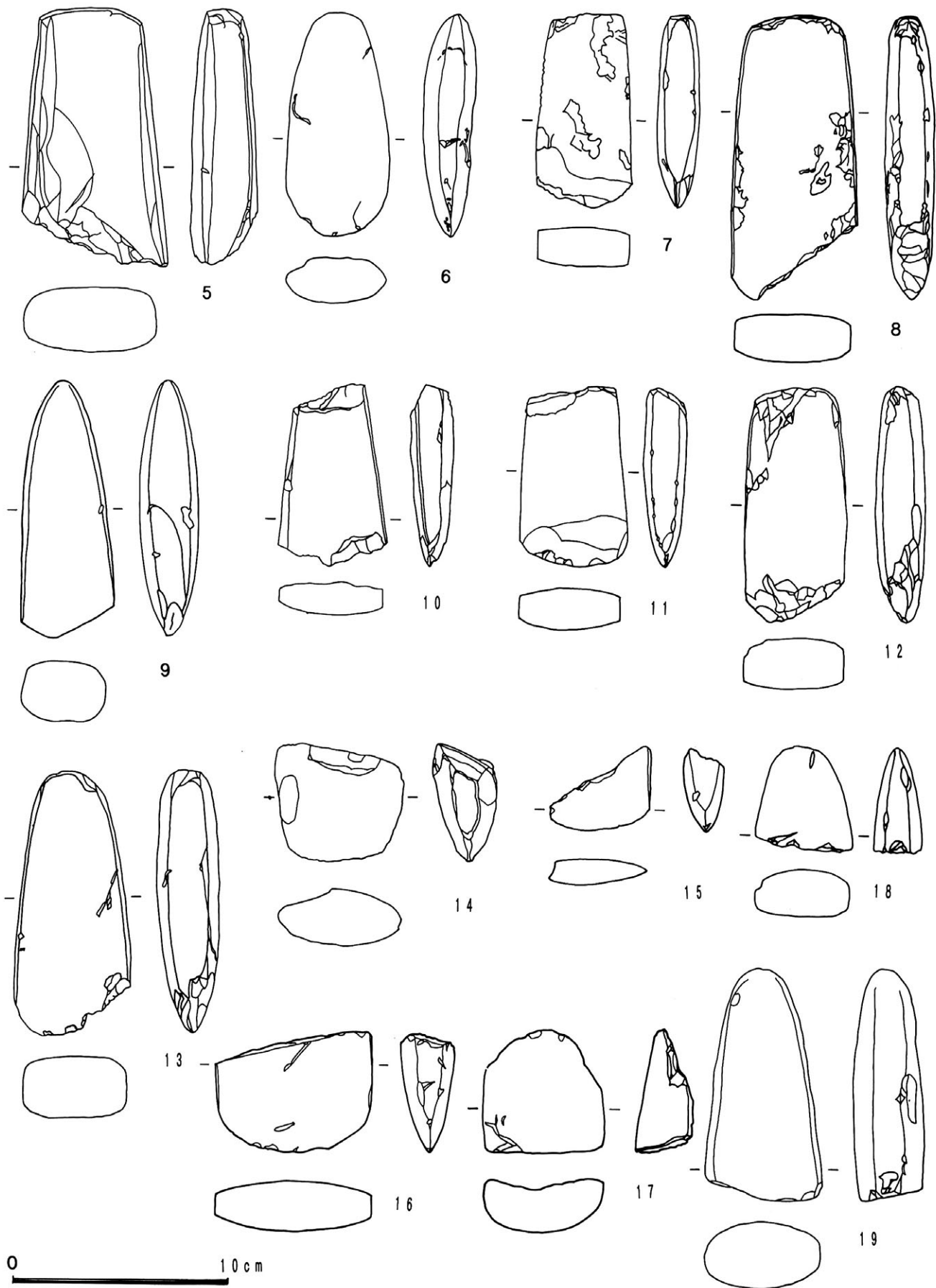


図2 四高旧蔵磨製石斧

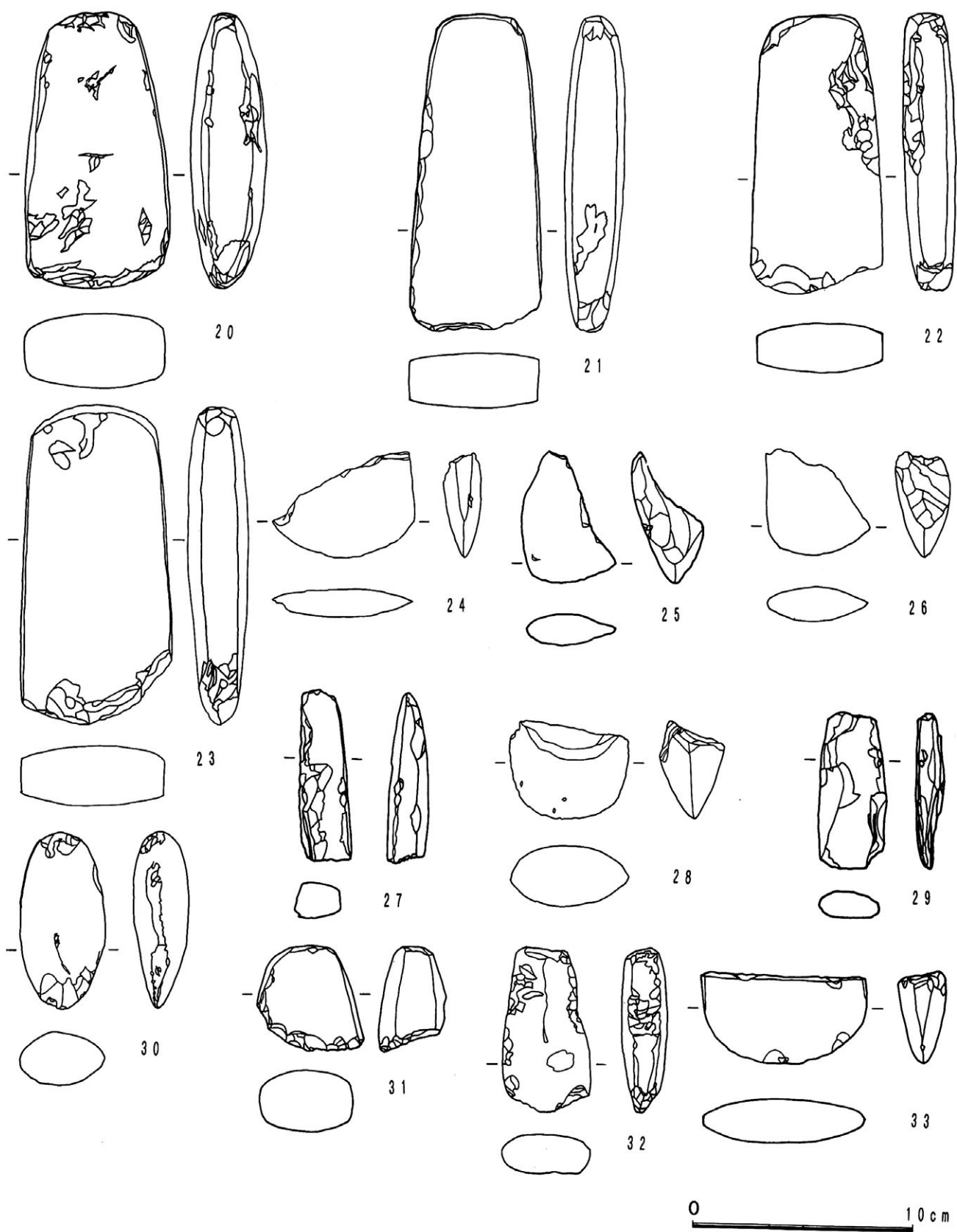


図3 四高旧蔵磨製石斧

標本室を訪ねて

金沢大学理学部ハーバリウム

理学部ハーバリウムは生物学科自然史講座の植物標本室である。2階部分を吹き抜けにし3層構造になっている。第1・2層をハーバリウム、第3層を動物標本室としている。総床面積270m²、金沢城時代の2.5倍の広さを持つ。

自然史講座は、1949年本学の発足と同時に生物学科植物学講座として出発した。その後63年の修士課程の新設に伴い植物分類・地理学講座となり、90年に植物自然史講座、本年度から生態学を含めて大講座制をとり現在の呼称となる。ハーバリウムでは、その間の研究活動の結果収集されてきた標本が管理・活用されている。また第四高等学校の標本を受け継いだため、標本は百年の集積となる。

第四高等学校では、白山の自然史研究で知られる市村塘、本学発足後は、台湾・屋久島・北陸のフロラ、日本産のラン、群落生態学の研究の正宗巖敬、極東のスゲの研究の秋山茂雄、コケ植物の形態学の河合功、北陸のフロラ、日本産のラン研究の里見信生らの研究者による収集が、ハーバリウムの充実に果たした役割は大きい。この時点での標本の数は維管束植物14万点、コケ植物1000点であった。現在、維管束植物20万点、コケ植物1000点、地衣類500点の乾燥標本、花と地下組織の液浸標本1000点を収蔵する。

これらの中には新種の命名の基準となったタイプ標本が約200点含まれる。

採集地は日本全国に及び、さらにここ数年間、ロシア、中国、ネパール、インド、タイ、インドネシア、マレーシア、ニュージーランド、オーストラリア、北アメリカ各地、ヨーロッパ各地等海外学術調査による標本が増加した。また、国内では東北大学、国立科学博物館、民間の各植物園、海外ではシンガポール植物園、中国科学院、ロシア科学アカデミー等の研究機関と標本交換を行い、資料の充実をはかっている。

一方、世界的視野に立つ研究に平行して、地域関連の調査も行っている。石川県地域植物研究会では『石川県樹木分布図集』(1994)、『石川県草本分布図集』(未刊行)を作成し、資料をデータベース化している。その資料の大半は本学ハーバリウムの蓄積に基づいている。また、金沢城内、角間地区の植物の調査による標本も網羅する。

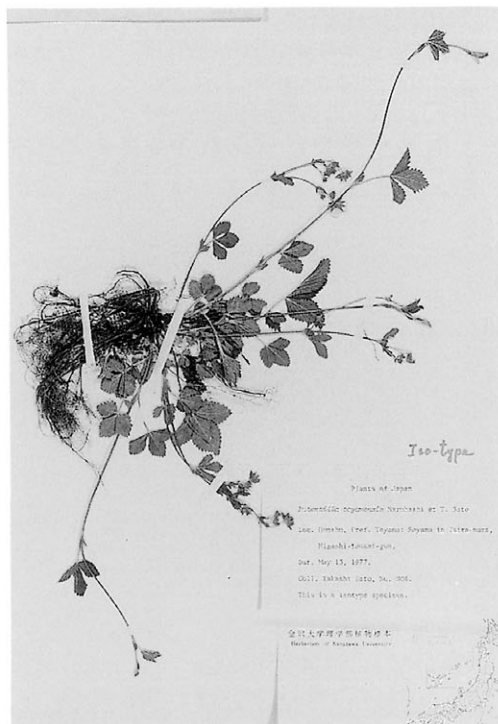
本学ハーバリウムは国際登録記号をKANAとし、内外から多くの研究者を迎える。

収集・研究・分類・保存というハーバリウムワークは自然史研究の基礎を支えている。

理学部自然史講座教授 清水建美先生(資料館運営委員)にお話を伺った。
(在田則子 資料館)



タイプ標本 センカクオトギリ



タイプ標本 エチゴツルキジムシロ

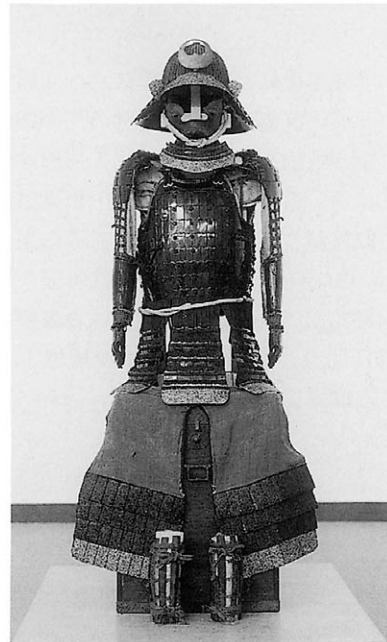
資料館彙報（平成8年4月～平成8年10月）

- 4月 石川県立歴史博物館春季特別展「加賀藩の甲冑」のために紺糸威二枚胴具足、白糸威六枚胴具足及び金沢城出土頭形兜鉢片を貸し出した。
- 4月 文学部史学科の博物館実習が資料館で始まった。
- 5月 資料館収蔵の「小中屋文書」について調査研究を進めるため、金沢市立玉川図書館宇佐美 孝氏を客員研究員に迎え、協力をお願いすることになった。
- 6月 文学部考古学研究室及び資料館主催の「アラビア湾岸の交易都市 ハレイラ島の発掘展」を開催した（6月10日～7月6日）。
- 10月 文学部（博物館実習）及び資料館主催の「小中屋文書 白山麓幕府領の支配と生活展」を開催予定である（10月28日～11月1日）。

資料紹介

紺糸威二枚胴具足

兜鉢は鉄錆地六十二間こぼしかぶと小星兜ひねのに日根野六段しころ綴。
角本つのもとは一本角本しょうちゆうで正中しょうちゆうに付け、加賀藩直臣の合印
「金猪目」きんいのめの前立まえだてを据える。頬当ほおあては鉄鑢目てつやすりめの猿頬ざるぼお。
垂たれは三段。
肩まびさし底かたずりのいた、肩摺板ふきかえし、吹返すそいた、垂の最下段、裾板すそいたは同仕
立で叩塗金箔押。
胴は鉄地黒漆塗二枚桶側胴おけがわとう、右胸さいはいつけかんに采配付鑢。
肩わたかみ上に亀甲小鱗きっこうこびれ。布帛ふはくマンチラまんちらを備える。背面に
旗指物はたさしものを差すための合当里がったり・待受まちうけ・受筒うけづつを備える。
草摺くさずりは七間五段。
板物威袖いたものおどしそでを三枚筒籠手つつこてに仕付ける。佩楯はいだては板佩
楯すおあて。臙当すおあては六本篠越中臙当。



展示室を公開しています。見学を御希望の方は資料館準備室(64-5215)に御連絡
ください。随時、御案内します。

金沢大学 資料館だより〈第8号〉

発行日：平成8年10月1日

印刷：高島出版印刷株式会社

発行所：金沢大学資料館

〒921 石川郡野々市町字御経塚町118街区1番

〒920-11 金沢市角間町 Tel 0762-64-5215

Tel 0762-94-6100